

企業訪問 資源循環レポート

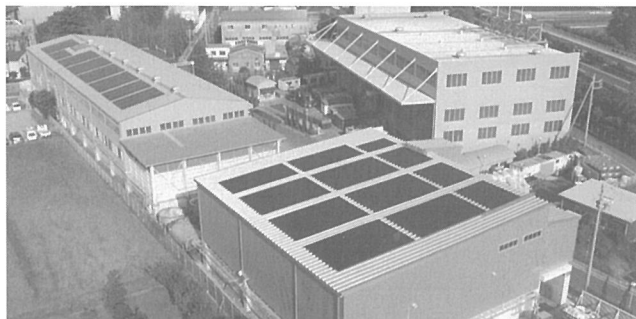
加山興業（株）

東海地区最大の 乾溜ガス化焼却プラント さらなる廃棄物の 無害化・減容化を図る

加山興業株式会社



Thank you so much!
60th Anniversary
I'm Here!



加山興業株式会社 豊川本社

■代表者／代表取締役 加山 順一郎

■所在地／愛知県豊川市南千両2丁目67

TEL 0533-89-0375 FAX 0533-84-3739

昭和26年「加山組」創業、昭和36年「加山興業（株）」に組織変更。創業以来、“とても頑固なゴミ屋さん”として徹底した適正処理に努められ、令和2年の創立60周年誌に同社のあるべき姿を明確にするべく「KAYAMA's DNA」*1を作成。企業遺伝子（KAYAMA's DNA）に従い次世代のための環境保全を最大の責任と認識し、企業活動のあらゆる面で廃棄物の再資源化ならびに環境にやさしい処理技術の研究開発に努める。また、地域社会に貢献するとともに、快適な職場環境の形成の為、労働安全衛生に配慮した活動を 従業員が協力・協議・参加し健康と安全の確保に努めています。

今号では、同社柏原宏人氏に令和4年2月に稼働された「乾溜ガス化焼却プラント」の概要等についてお話を伺いました。

*1 DNAとは私たちの身体を作る設計図と言われており、KAYAMA's DNAは同社を形成する設計図になります。

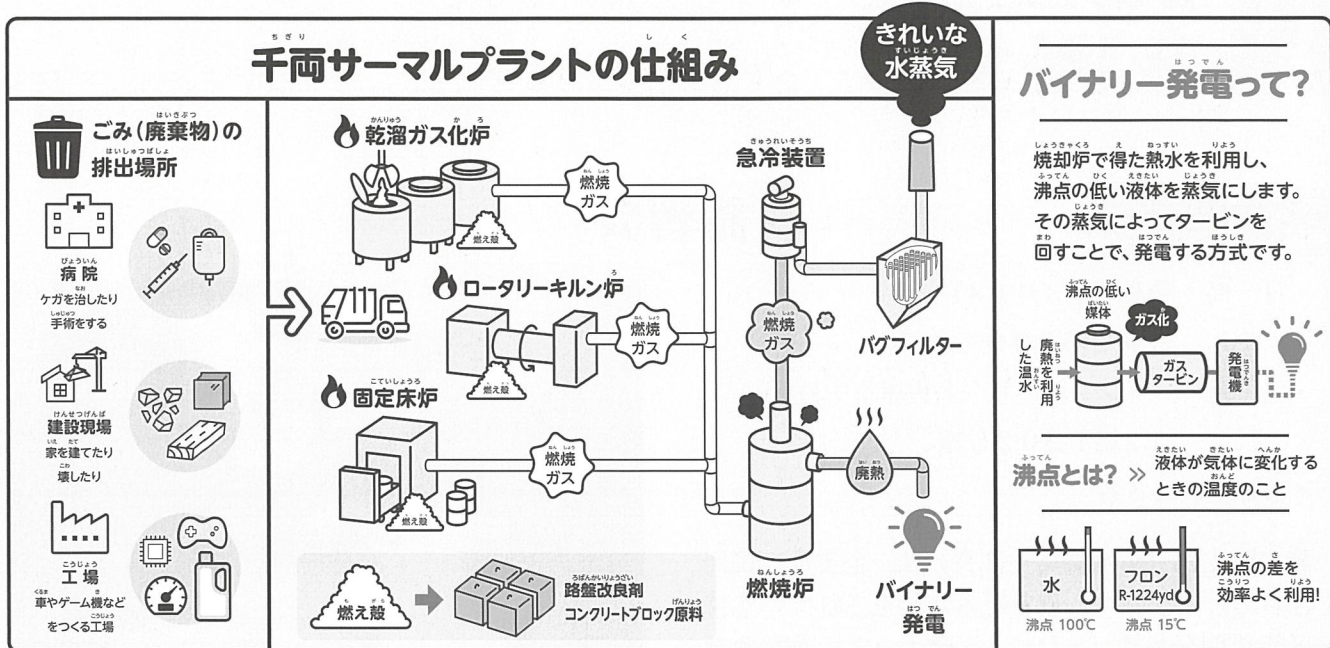


取材にご対応いただきました 加山興業（株） 柏原氏（オンライン取材）

■乾溜ガス化焼却について

平成元年に現在の20分の1ぐらいの焼却炉で乾溜ガス化焼却が行われていました。焼却施設の規模を拡大するにあたり、新しい場所での用地の確保が難しかったため、同施設を拡張することとなり、産廃処理施設の設置計画に着手し、平成31年に都市計画審議会の審議を受け了承を得た。許可通知は令和元年10月、令和4年1月に施設使用の検査が完了し同年2月から稼働となりました。

千両サーマルプラントの仕組み



■千両サーマルプラント概要

昨今の産業廃棄物処理需要の増加、多様化、処理困難化への対応、また、近隣への環境負荷低減を目指し、豊川市千両リサイクルプラント既存施設の一部を解体し、日量91.68トンの焼却プラントを本年2月より稼働しました。

乾留ガス化焼却装置（日量75.48トン）とロータリーキルン炉（日量10.2トン）、固定床炉（日量6トン）に発電施設を併せたプラントの処理品目は燃え殻（特別管理廃棄物：以下特管含む）、汚泥（特管含む）、廃油（特管含む）、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、廃酸（特管含む）、廃アルカリ（特管含む）、感染性産業廃棄物の17種類です。

新しい施設は性能面が向上しており、排ガス中のダイオキシン類も1ナノグラムと従来の10分の1まで基準を下げ、ばいじんも1立方メートル中0.08グラムと半分まで下げています。

安全対策にも力を入れ、震度5以上の感知や停電、異常高温で装置は全停止するようになっています。



今回の新焼却炉で弊社のサーキュラーエコノミーの体制が整うことができました。

皆様のお役に立てる企業として一層の精進をいたしますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

加山興業株式会社 代表取締役 加山順一郎

さらに炉内温度800℃以上の滞留時間2秒以上の確保や、排ガス温度200℃以下に急冷などのダイオキシン類対策も万全です。また、排ガス急冷装置に消石灰や薬剤を噴霧して脱塩、活性炭でも吸着するようになっています。

廃棄物ヤード・ピットは建屋内に設置して周辺への悪臭を防ぐとともに、速やかに焼却炉に投入することができ、機器類も屋内で稼働するため低騒音、低振動です。

■千両サーマルプラントの役割

- ・無害化：フロン類の破壊や、取り扱いに注意が必要なごみ（廃棄物）を無害化
- ・減容化：ごみ（廃棄物）の容積を減らし燃え殻の埋め立て量を削減
- ・リサイクル：燃え殻の一部は路盤改良剤やコンクリートブロックなどへ再利用
- ・廃熱の有効活用
廃熱をバイナリー発電に活用

乾留ガス化焼却プラント稼働

加山興業 産業廃棄物処理需要に対応



東日新聞 2022年2月13日掲載